

SICE東北支部50周年記念学術講演会原稿見本

(副題)

Commemorative Annual Meeting of the 50th Anniversary of the Founding of SICE Tohoku Branch
(Sub title)

○宮城 一郎（宮城工大），岩手 二郎（岩手工大），青森 三郎（青森医大），
山形 四郎（山形工業），福島 五郎（福島情報研），秋田 六郎（(株)秋田）

○Ichiro Miyagi, Jiro Iwate, Saburo Aomori,
Shiro Yamagata, Goro Fukushima, Rokuro Akita

キーワード： 多点計測 (multi-point measurment), フーリエ変換 (Fourier transform),
回帰分析 (regression analysis), 最適推定 (optimal estimation), 雑音除去 (noise elimination)

〒000-0000 仙台市青葉町2014 宮城工業大学大学院工学研究科機械工学専攻 仙台研究室
宮城 一郎, Tel: (000)123-4567, Fax: (000)123-4567, E-mail: ichiro@miyagitech.ac.jp

1. はじめに

この度は，計測自動制御学会東北支部50周年記念学術講演会に発表をお申し込みいただき，誠にありがとうございます．講演原稿は，以下の作成要領に従ってご準備下さい．

原稿は，A4二段組みで，2または4ページとし，ページ番号は付けないで下さい．マージンは，上下は各2cm，左右は各1.5cmとして下さい．また，原稿は，PDFファイルでの投稿をお願い申し上げます．

2. 題目等

本見本を参考に，以下の項目をご記入下さい．

1. 邦文題目（14pt ゴシック体，ボールド，行間18pt）
2. 英文題目（12pt，行間16pt）
3. 和文著者名および所属略称（12pt，行間16pt）（登壇者に○を付ける）
4. 英文著者名（10pt，行間12pt）（登壇者に○を付ける）
5. キーワード（10pt，行間12pt）
6. 代表者連絡先（10pt，行間12pt）（記載事項は見本を参照）

3. 本文

3.1 文章

本文の文章は9pt，行間14pt程度として下さい．また，口語体とし，当用漢字およびかなを用い，新かなづかいによるものとします．外国語はカタカナまたは言語のままとします．

用語はなるべく文科省またはJISで制定されたものを用いて下さい．また，単位は国際単位(SI)を用い，数字はアラビア数字を使うものとします．量および単位記号(ローマ字またはギリシャ文字)はなるべくJISで制定されたものを使用することとします．

3.2 脚注

脚注は，本文の下に横線を引き，その下に記入して下さい．記号はページ毎に*印を使うものとします．

3.3 数式

変数名は，基本的にイタリックとし，式番号は式の右端に付して下さい．

$$\frac{\partial u}{\partial t} + u \frac{\partial u}{\partial x} = -\frac{\partial p}{\partial x} + \frac{1}{Re} \frac{\partial^2 u}{\partial x^2} \quad (1)$$

3.4 図表

図表は，基本的には計測自動制御学会論文集の書き方に準拠します．図の表題は図の下に，表の表題は表の上に付けます．表題は，和文と英文の両方で書くのが望ましいが，どちらか一方でも構いません．印刷の都合上，図表は白黒またはグレースケールにして下さい．例を図1に示します．

4. 文献の引用

4.1 形式

参考文献のリストは，本文の末尾に纏めて書き，次の形式によるものとします．

4.1.1 雑誌のとき 連番) 著者: 論文題目，誌名，巻-号，始ページ/終ページ (年)

例:

- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, **11**-4, 60/63 (1992)

Fig. 1 Visualization result with adaptive colormaps.

4.1.2 単行本するとき 連番) 著者: 書名, 始ページ/終ページ, 発行所名 (発行年)

例:

- 1) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧 出版 (1991)

4.2 引用

引用箇所番号を右肩に小さく記入して下さい.

例:

神経系の遠心性コピー情報¹⁾は, ここでは認められないといわれている^{2, 3)}.

5. おわりに

細かい書き方は, 計測自動制御学会論文集に準拠して下さい.

参考文献

- 1) 杉山守弘(編): 両半球の神経心理学, 234/236, 朝霧出版 (1991)
- 2) M. Yoshizaki, H. Takeshita, M. Ohsawa and Y. Saki: A frequency domain hypothesis for human postural control characteristics, IEEE Eng. in Med. and Biol. Magazine, **11-4**, 60/63 (1992)
- 3) 笠間健, 朝比奈敏之, 吉田崇, 辻岡三郎: 脳波を用いた3次元運動計測システム, 計測自動制御学会論文集, **19-12**, 997/1003 (1983)